埼玉県 AYA 世代がん患者の
終末期療養に関する実態
アンケート調査に係る報告書

【訪問看護ステーション】

アンケート調査概要

・調査日時
2023 年 11 月 15 日(水)～2024 年 1 月 16 日(火)

・調査対象
以下のすべての基準を満たすものを本調査の対象とする。
・埼玉県内にある地域がん診療連携拠点病院(国指定)、埼玉県がん診療指定病院(県指定)、小児がん拠点病院、在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所、保険薬局(地域連携、専門医療機関連携)、訪問看護ステーション(がん緩和対応)
(病院、診療所、薬局については関東信越厚生局のホームページから令和５年３月１日現在の届出受理医療機関を抽出、訪問看護ステーションについては、(一社)埼玉県訪問看護ステーション協会のホームページから「がん緩和」を抽出)
・令和５年に開催した「小児・AYA 世代がん患者の終末期医療に関するオンライン研修会」の参加施設(病院を除く。)

・目的
思春期・若年成人世代がん患者の終末期療養に関わる医療者のニーズと直面する課題を明らかにすることで、適切な支援方法を探索する根拠とする。同時に、本調査を通して AYA 支援に関する医療従事者への啓発、患者に対する情報提供資源の拡充など AYA 世代がん患者に対する社会整備の一歩となることが期待される。

・調査方法
WEB 媒体でのアンケート調査による記述疫学調査

・回答率
＜全体＞
アンケート配布件数:160 件
アンケート回収件数:42 件
割合:26%

＜訪問看護ステーション＞
アンケート配布件数:7 件
アンケート回収件数:4 件
割合:57%

設問内容

問 1.　貴施設の基本情報等についてお伺いします。

1-1.　施設名を入力してください。

1-2.　訪問看護のため患者宅に訪問する看護師の職員数について選択してください。

1-3.　事業所として対応可能な患者の年齢を選択してください。（複数選択可）

1-4.　AYA 世代がん患者1人に対する1か月あたりの平均的な訪問回数を選択してください。

1-5.　AYA 世代がん患者1人に対する平均的な介入期間を選択してください。

1-6.　直近 6 か月間における 15～19 歳の AYA 世代がん患者について、看取った数を選択してください。

1-7.　直近 6 か月間における 20～39 歳の AYA 世代がん患者について、看取った数を選択してください。

問 2.　AYA 世代がん患者の終末期医療体制についてお伺いします。

2-1.　過去に AYA 世代がん患者を在宅で看取ったご経験について選択してください。

2-2.　上記「2-1」で「2.ない」を選択された医療機関だけにお聞きします。
在宅で看取りを行ったことがない理由を選択してください。（複数回答可）

2-3.　上記「2-2」で「7 その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。

2-4.　AYA 世代がん患者を（場所を問わず）看取る場合に、他の成人世代に比べて困難だと感じますか？

2-5.　その患者・家族側の理由について選択してください。（上位3つまでを選択ください）

2-6.　「2-5」で「9.その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。

2-7.　その医療・社会側の理由について選択してください。（上位3つまでを選択ください）

2-8.　「2-7」で「10.その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。

2-9.　AYA 世代がん患者の在宅療養に向けて重要だと思うものを選択してください。
医療側の課題について選択してください。（上位3つまでを選択ください）

2-10.　「2-9」で「12 その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。

2-11.　AYA 世代がん患者の在宅療養に向けて重要だと思うものを選択してください。
患者・家族支援に関する課題について選択してください。（上位3つまでを選択ください）

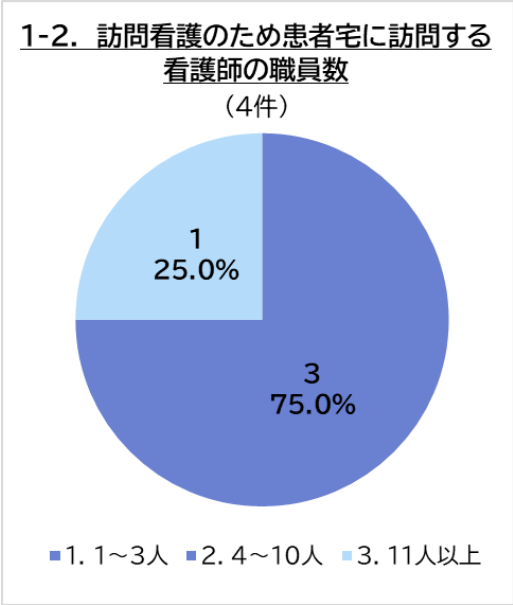
2-12.　「2-11」で「6 その他」を選択した場合のみ内容を記入してください。

2-13.　AYA世代のがん患者に対する医療や支援全般に関するご意見・ご要望をお聞かせください。
（自由記述）

問1. 貴施設の基本情報等について

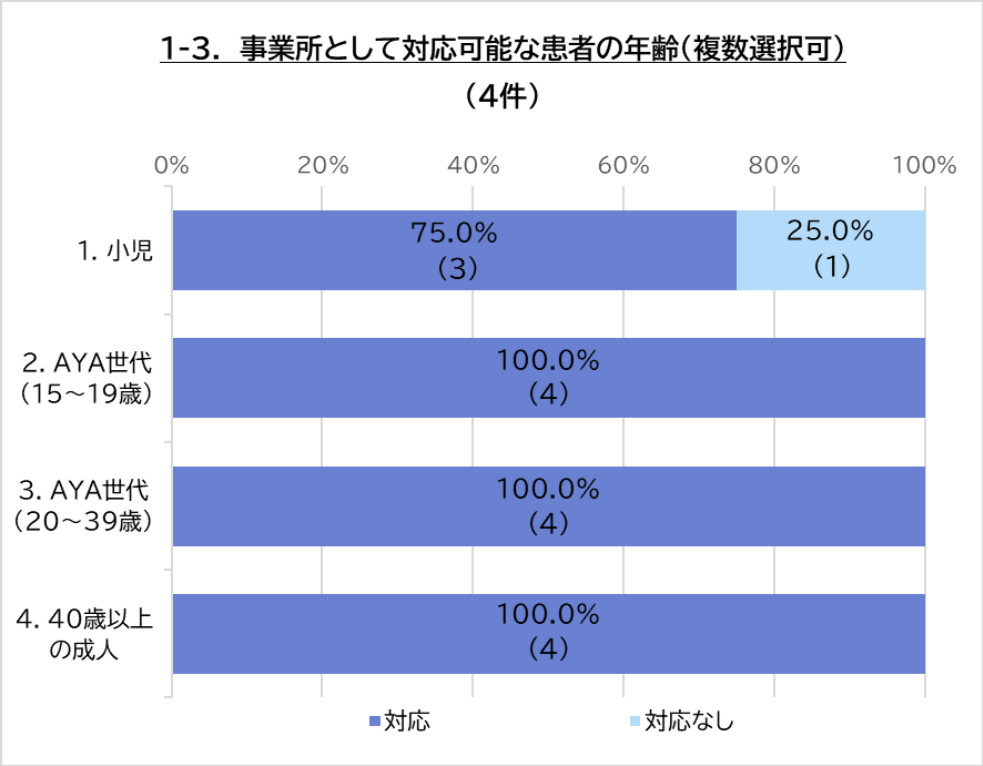
1-2.訪問看護のため患者宅に訪問する看護師の職員数

	件数
1. 1～3 人	0
2. 4～10 人	3
3. 11 人以上	1
計	4



患者宅に訪問する看護師の職員数は
「4～10人」75. 0%、「11人以上」25. 0%で
「4～10人」が一番多い結果となった。

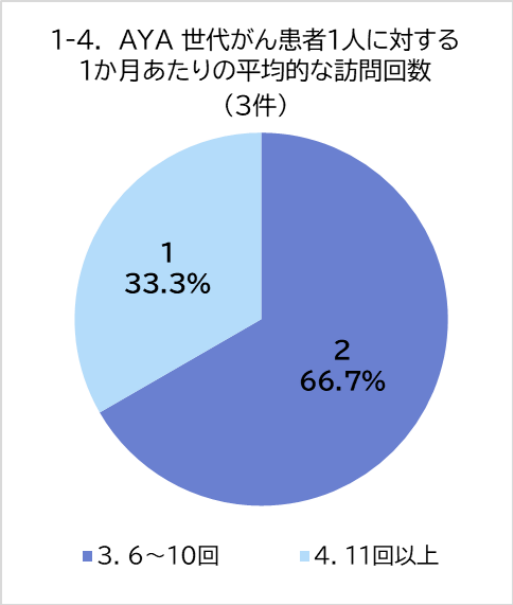
1-3.事業所として対応可能な患者の年齢(複数選択可)



事業所として対応可能な患者の年齢は
「40 歳以上の成人」、「AYA世代(20～39歳)」、「AYA世代(15～19歳)」は全事業所で対応可能で、
「小児」だけ75. 0%となった。

1-4.AYA 世代がん患者1人に対する1か月あたりの平均的な訪問回数

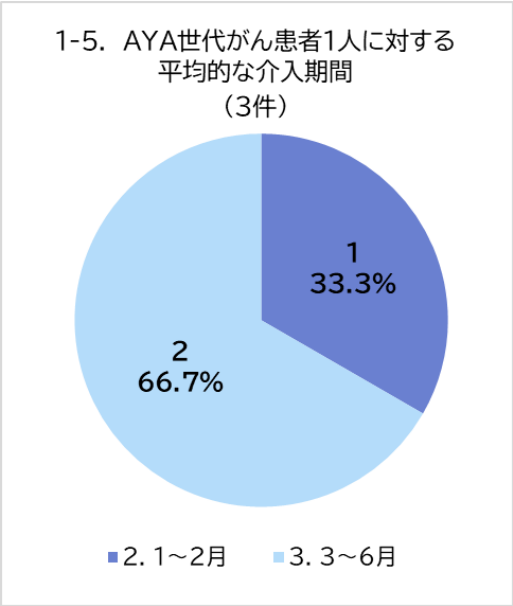
	件数
1. 1～2 回	0
2. 3～5 回	0
3. 6～10 回	2
4. 11 回以上	1
5. 訪問診療等を行っていない	0
計	3



1か月あたりの平均的な訪問回数について
「6～10回」66.7%が一番多く、
次いで「11 回以上」33. 3%であった。

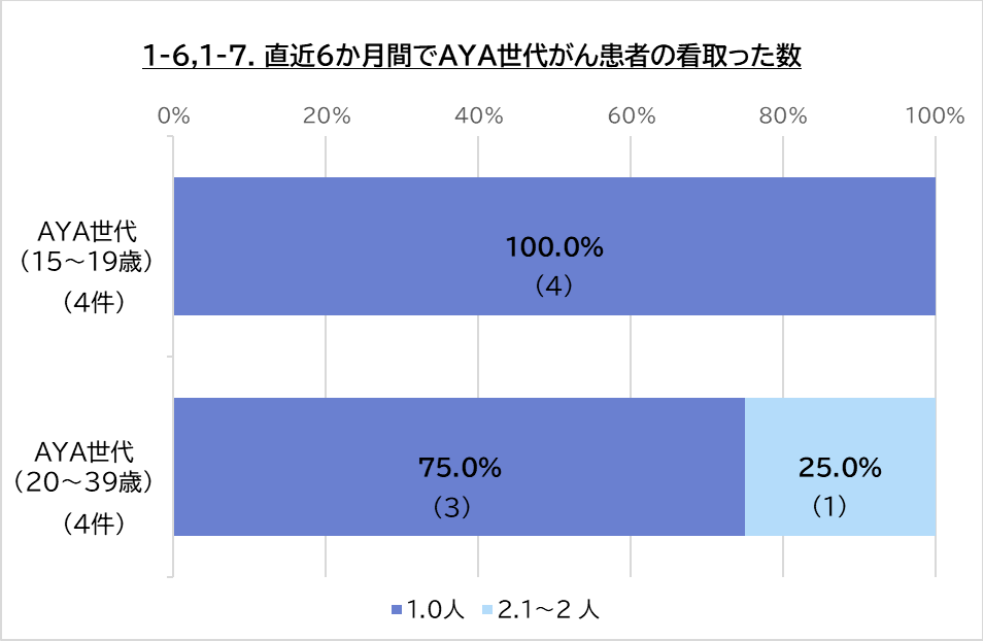
1-5.AYA 世代がん患者1人に対する平均的な介入期間

	件数
1. 1 か月未満	0
2. 1～2 月	1
3. 3～6 月	2
4. 7～12 月	0
5. 1 年以上	0
6. 訪問診療等を行っていない	0
計	3



AYA 世代がん患者1人に対する平均的な介入期間は
「3～6 月」66. 7%が一番多く、
次いで「1～2月」33. 3%であった。

1-6./1-7.直近 6 か月間で AYA 世代がん患者の看取った数

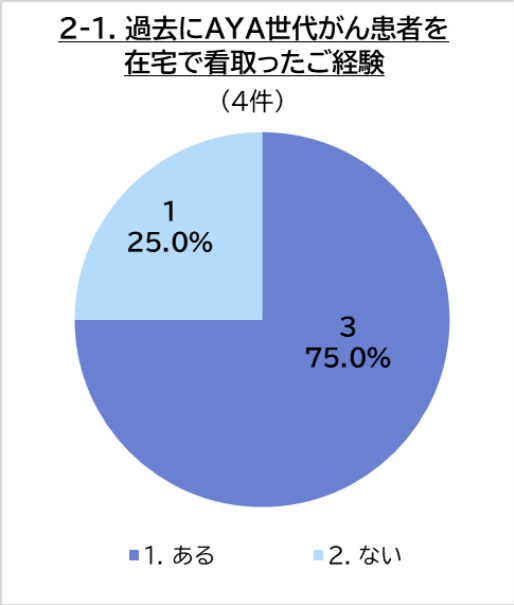


AYA世代がん患者を看取った数について
「AYA世代(20～39歳)」で「1～2人」25.0%(1 件)のみで、実績は少ない結果であった。

問2. AYA 世代がん患者の終末期医療体制について

2-1.過去に AYA 世代がん患者を在宅で看取ったご経験

	件数
1. ある	3
2. ない	1
計	4



過去に看取った経験は
「ある」75. 0%、「ない」25. 0%と「ある」方が多かった。

2-2./2-3.在宅で看取りを行ったことがない理由(複数回答可)

（1回答）

	件数
1. 自院に入院の上、看取りを行う	0
2. 在宅看取りは対応可能であるが、対象患者がいなかった	1
3. 在宅看取りを希望した患者はいたが、調整中に死亡した	0
4. 24 時間対応できる体制が整っていない	0
5. 在宅看取りに関する知識・ノウハウがない	0
6. 在宅看取りを行うに当たっての多職種との連携が困難	0
7. その他	0

在宅で看取りをおこなったことがない理由は
「宅看取りは対応可能であるが、対象患者がいなかった」(1 件)であった。

2-4.AYA 世代がん患者を看取る場合に、他の成人世代に比べて困難だと感じるか

	件数
1.常に感じている	0
2.常にではないが他の成人世代よりも困難と感じる	4
3.感じていない	0
4.わからない	0
計	4

AYA世代がん患者を看取る場合について
全回答者が「常にではないが他の成人世代よりも困難と感じる」であった。

2-5. /2-6.「常に感じている」「常にではないが、他の世代よりも困難と感じる場合がある」と回答したその患者・家族側の理由（上位3つまでを選択）

（4回答）

	件数
1. 患者本人の発達年齢に応じたコミュニケーションをとることが難しい	0
2. 方針決定に家族の意向を考慮する必要があるなど意思決定支援が難しい	3
3. 患者と家族が終末期の病状を理解されることが難しい	2
4. ACPや看取りについて患者家族に理解を深めてもらうのが難しい	1
5. 患者・家族の精神的なケアが難しい	3
6. 患者の未成年の子どもに対するケア（病気の伝え方など）が難しい	2
7. 世帯構成により在宅療養の希望が実現できないことがある	0
8. 信頼関係を構築するまでに時間がかかる	0
9. その他	0

他の世代より困難と感じる困難と感じる患者・家族側の理由は
「方針決定に家族の意向を考慮する必要があるなど意思決定支援が難しい」、「患者・家族の精神的なケアが難しい」（3件）が一番多く、
次いで「患者と家族が終末期の病状を理解されることが難しい」、「患者の未成年の子どもに対するケア（病気の伝え方など）が難しい」（2件）であった。

2-7./2-8.「常に感じている」「常にではないが、他の世代よりも困難と感じる場合がある」と回答した医療・社会側の理由(上位3つまでを選択)

（4回答）

	件数
1. 自施設の医療従事者の人手が不足している	0
2. 連携先の医療従事者の知識・技術に不安がある	0
3. 抗がん治療などの理由で療養場所の調整が遅れることがある	0
4. 医療機関との連携のタイミングが難しい	2
5. 鎮痛や呼吸困難感などの症状緩和・今後の予測が難しい	3
6. 輸血の対応が難しい	0
7. 介護ケアを代行する場合がある	0
8. 経済的な理由から訪問回数を制限される場合がある	3
9. 医療者の精神的負担が大きい	2
10. その他	0

他の世代より困難と感じる医療・社会側の理由は
「鎮痛や呼吸困難感などの症状緩和・今後の予測が難しい」、「経済的な理由から訪問回数を制限される場合がある」(3件)が一番多く、
次いで「医療機関との連携のタイミングが難しい」、「医療者の精神的負担が大きい」が多かった。

2-9./2-10.AYA 世代がん患者の在宅療養に向けて重要だと思うもの医療側の課題(上位3つまでを選択)

（4回答）

	件数
1. 病院の退院支援体制の充実	3
2. 急性期医療機関の在宅医療に対する知識・理解の促進	0
3. 地域での患者の緩和ケアや看取りができる医療従事者の理解の促進	1
4. 在宅療養中の専門的緩和ケアに関する病院側の相談窓口の整備	1
5. 緊急時受け入れ病床の確保	4
6. AYA世代がん患者の対応病院や在宅医療機関等をまとめたマップ等の充実	0
7. 訪問看護ステーションとの連携(提携先事業所を増やすなど)	0
8. 地域での、在宅医療やケアに必要な医療機器や薬剤等の医療資源の充実	0
9. かかりつけ医等、地域の医療・介護スタッフとの退院前カンファレンス開催	1
10. 診療体制構築など在宅医の負担を和らげる医師会・行政のバックアップ	0
11. 医療・介護関係者の情報共有ICTツール(PC、ﾀﾌﾞﾚｯﾄ等)の整備	2
12. その他	0

重要だと思うもの医療側の課題について
「緊急時受け入れ病床の確保」(4件)が一番多く、
次いで「病院の退院支援体制の充実」(3件)であった。

2-11./2-12.AYA 世代がん患者の在宅療養に向けて重要だと思うもの患者・家族支援に関する課題

（4回答）

	件数
1. 患者・家族の病状理解、ACPの実施	4
2. 患者・家族の在宅医療に対する理解・在宅療養に関する資材の充実	2
3. 地域における在宅療養をコーディネートする窓口の充実	1
4. 在宅療養に係る患者等の負担軽減の仕組み（介護保険に代わる経済支援等）	3
5. 保育・養育環境に関する窓口での支援の充実	1
6. その他	0

重要だと思うもの患者・家族支援に関する課題について
「患者・家族の病状理解、ACP の実施」(4 件)が一番多く、
次いで「在宅療養に係る患者等の負担軽減の仕組み」(3 件)が多かった。

2-13.AYA世代のがん患者に対する医療や支援全般に関するご意見・ご要望

ご意見・ご要望
ケーススタディなど、色々な困難事例など今後も話す場所があると良いと思う。

以上